



11月21日

発行

文責 榎田

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

985着回収!! ご協力ありがとうございました。

11月18日(金)をもって、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトの服回収を終了いたしました。保護者の皆様、地域の皆様にはたくさんのご支援を頂きありがとうございました。また、小倉中央市民センターには、回収箱を設置して頂くなど大変ご迷惑をお掛けしました。おかげをもちまして、**985着**の衣服を回収いたしました。



回収した衣服は、株式会社ユニクロを通じて国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ送られ、そこから世界の難民キャンプ等に運ばれます。3学期には、難民キャンプに送られた衣服の様子などのご報告をいただけるようになっていきます。

なぜ、服が必要なのか？

今、世界各地では、紛争や迫害によって、故郷を離れざるを得ない難民があふれています。その数は、世界全体で約6000万人におよぶとされ、今後さらに増えていく可能性があります。このような難民の方々には、食料、水、住まい、医療、教育、仕事等、生きていくために最低限必要な者が不足しています。その中でも衣服は、暑さ、寒さをしのぐとともに、衛生上欠かせないものであり、人の尊厳を守り、「命」を守るものでもあります。さらにその先の難民の方々の自立を支援することにつながるのです。



菊陵中学校で行ったこと・・・

菊陵中学校では、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトを6月27日(月)よりスタートしました。はじめに、「人として生きる」ことについて考え、難民の方々に対し、自分たちにできることは何かあるかを検討しました。



6月29日（水）には、ユニクロの社員の皆様にご来校いただき“届けよう、服の子カラ”プロジェクトの目的や取り組み方について説明をしていただきました。

1学期末には実行委員会（3年：河くん・大口さん 2年：財前さん・深井さん 1年：宮地くん・村上くん・荒木さん・福島さん）が立ち上がり、たくさんの服を集めるための方法を検討し、服を回収する箱、ポスター等を作成しました。衣服の回収には小倉中央市民センターにもご協力いただきました。このような取り組みを通して、985着の衣服を回収することができました。



この活動を通して、今、世界が抱える課題を身近に感じ、主体的に捉えられるようになれば幸いです。

実行委員のみなさん、夏休み中にもかかわらず登校し、猛暑の中での活動お疲れ様でした。

ユネスコスクールとしての菊陵中学校

平成26年度より、北九州市ユネスコスクール推進指定校としてESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいます。ESDとは、環境問題や人権問題、経済問題等、地球規模での問題について主体的に捉え、解決へと導く力をつけていく教育です。これからの社会は「多様性（いろいろある）」「相互性（関わり合っている）」「有限性（限りがある）」「公平性（一人一人を大切に）」「連携性（力を合わせて）」「責任性（責任を持って）」という考えで形作られていくとされています。また、「今の子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就く」ともされています。

将来そのような社会で生き抜く、主体的に関わっていく大人になるために中学校では以下のような能力・態度を育成する必要があります。

①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する力 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度

全教科・領域でこのような能力・態度を育成していくことがESDの理念です。

